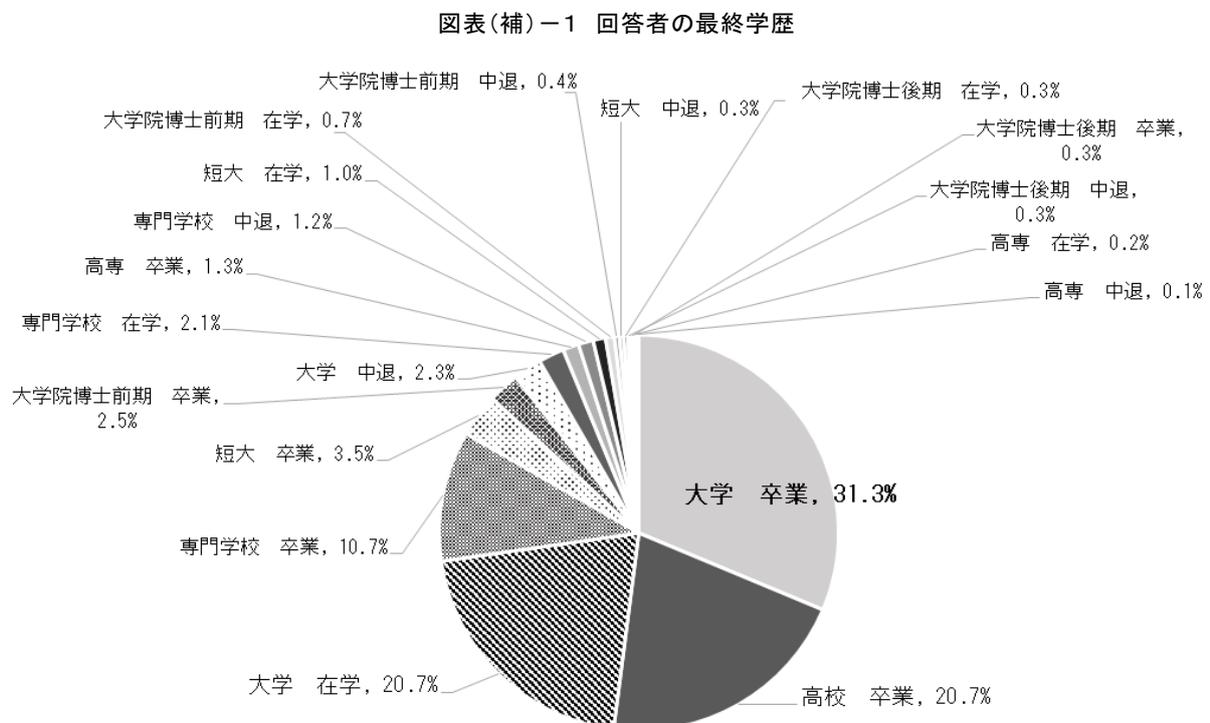


補章 回答者の最終学歴と専門分野によるデータ構成上の妥当性の検討

本章では、はじめに回答者全体の最終学歴の割合を示す。続いて、回答者の各最終学歴の専攻学科の割合に偏りがなから確認するため、文部科学省による平成 30 年度学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018a，2018b）と比較した結果を示す。

1. 回答者の最終学歴

最終学歴の回答で最も高い割合を示したのは「大学・卒業」であった（31.3%）。次に、「高校・卒業」、「大学・在学」（ともに 20.7%）、「専門学校・卒業」（10.7%）であった。



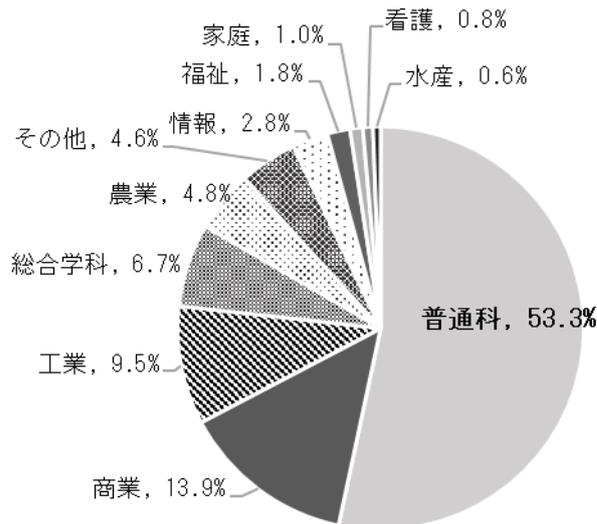
2. 最終学歴別専攻学科の割合および平成 30 年度学校基本調査との比較

次に、最終学歴ごとに専攻していた（あるいは現在専攻している）学科について、回答者数の割合を算出し、平成 30 年度学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018a，2018b）の結果と比較した。なお、各学歴には、在学者、中退者、卒業生すべてを含んでいる。ただし、「高校」には在学および中退との回答がなかったため、すべて卒業生である。

2-1 高等学校

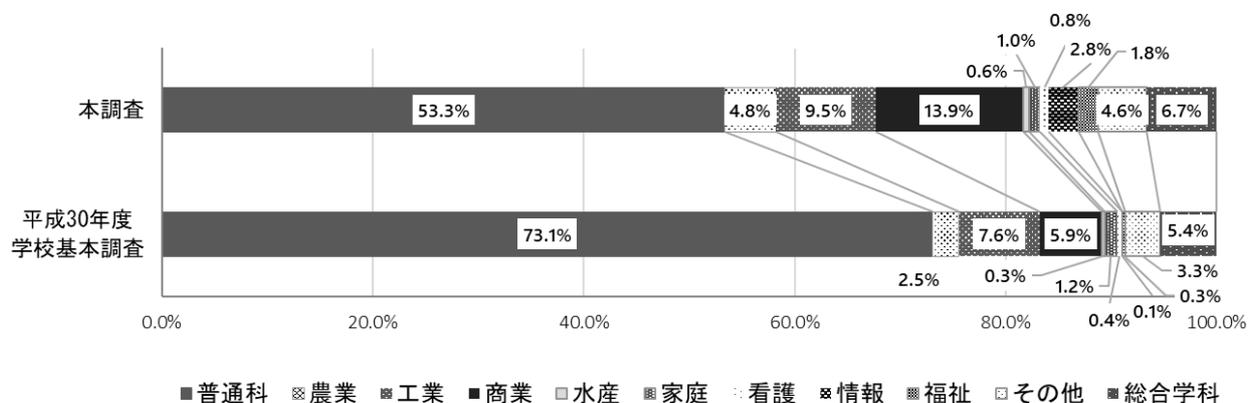
最終学歴を「高校・卒業」と回答した 495 人（男性 46.1%、女性 53.9%）のうち、最も高い割合を示した専攻は「普通科」（53.3%）であった。次に「商業」（13.9%）、「工業」（9.5%）であった。

図表(補)－2 【高校】専攻学科別回答者割合

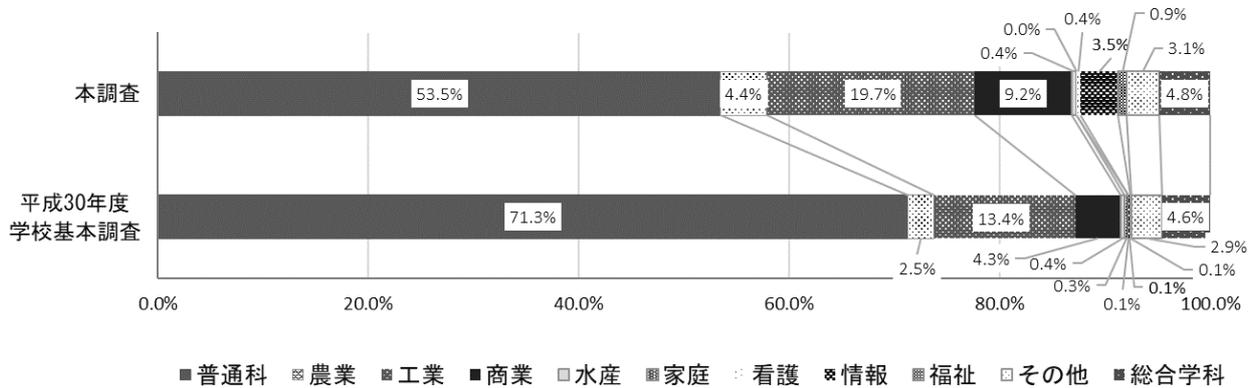


次に、平成 30 年度学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018b）における専攻人数の割合と比較した。全体、男女別ともに「普通科」の割合が学校基本調査よりも低い割合を示している。しかし、普通科を卒業した生徒は、半数以上がその上の高等教育機関に進学することが推察され、最終学歴では他の学校種別と回答している可能性が十分考えられる。そのため、重大な偏りではないと解釈した。

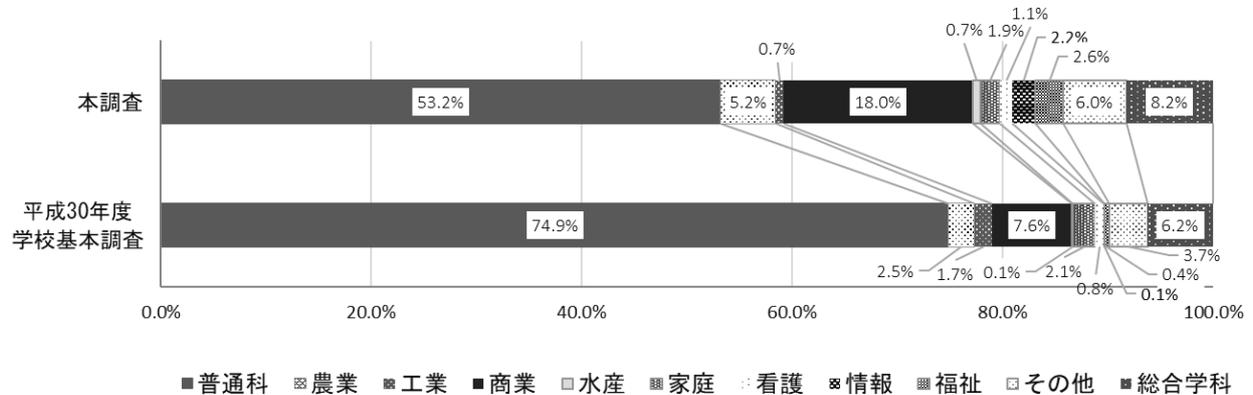
図表(補)－3 【高校全体】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－4 【高校男性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



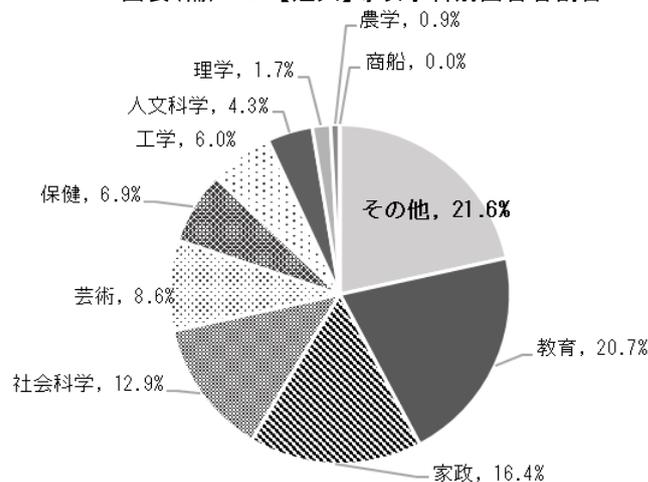
図表(補)－5 【高校女性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



2-2 短期大学

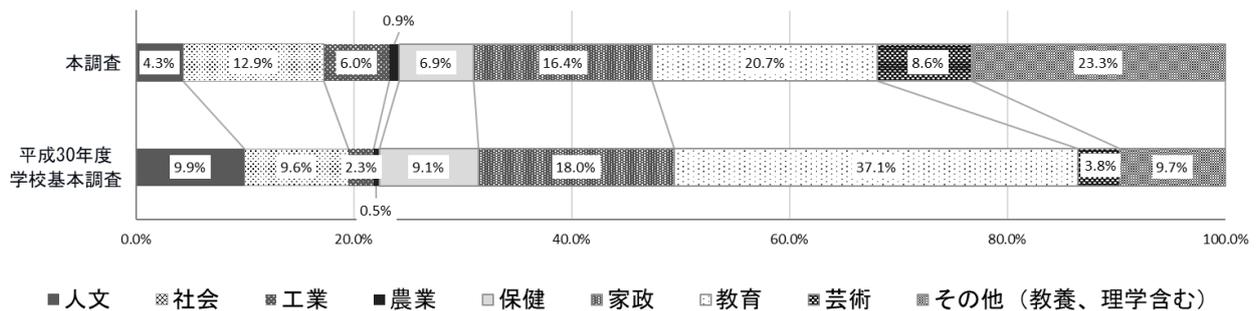
最終学歴を「短大」（在学、中退含む）と回答した116人（男性18.1%、女性81.9%）のうち、最も高い割合を示した専攻は「その他」（21.6%）であった。次に「教育」（20.7%）、「家政」（16.4%）、であった。

図表(補)－6 【短大】専攻学科別回答者割合

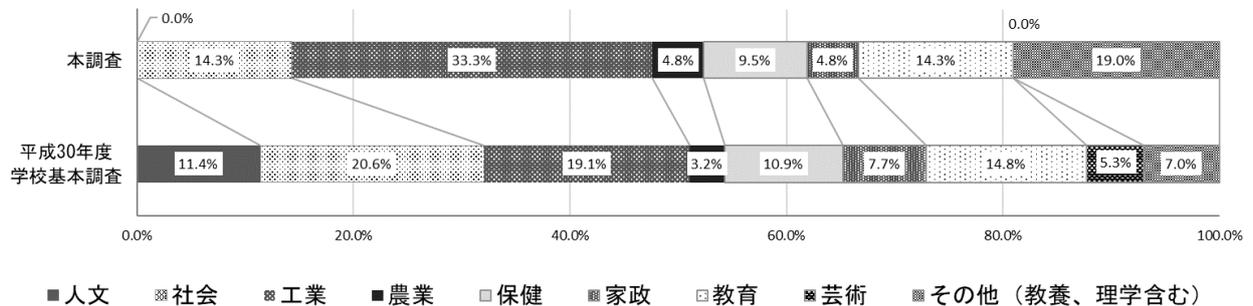


学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018a）との比較を行うにあたり、本調査の学科分類が一部異なっていたため、学校基本調査の分類に合わせて再集計した。具体的には、本調査の「理学」が学校基本調査では「その他」に含まれていたこと、本調査の「その他」に含まれる「教養」が学校基本調査では一領域として独立していたことの2点であった。以下の図表（補）－7～9では、本調査の「理学」を「その他」に含めて集計し、学校基本調査の「教養」を「その他」に含めて再計算した結果である。

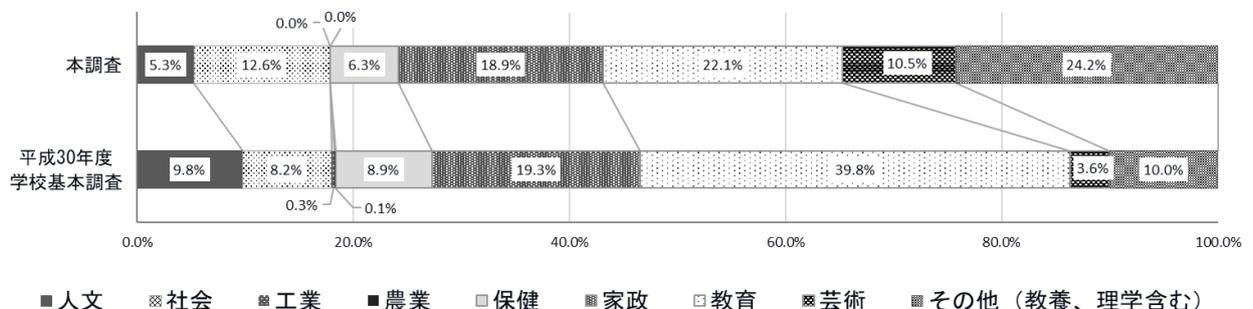
図表（補）－7 【短大全体】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表（補）－8 【短大男性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表（補）－9 【短大女性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較

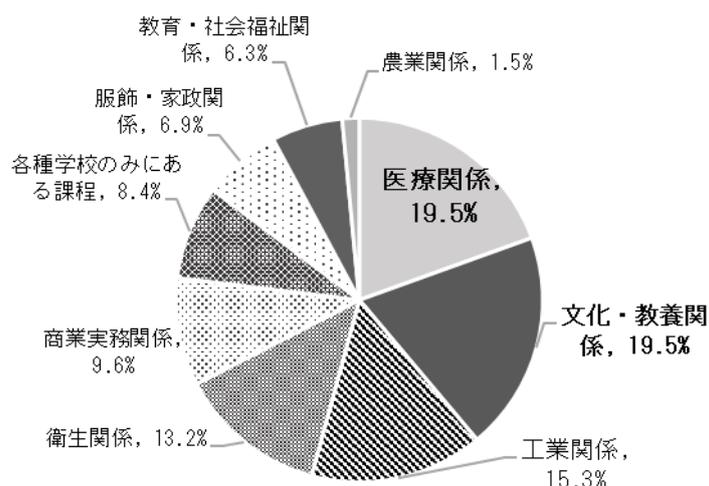


全体では、本調査「教育」の割合が学校基本調査よりも低く、「その他」の割合が高かったが、その2専攻以外の割合に大きな相違は見られなかった。男性では、本調査の「工業」、「その他」が学校基本調査の割合よりも高く、「人文」が低い。女性では「教育」の割合が学校基本調査よりも低く、「その他」の割合が高いことが示された。両調査結果において「教育」と「その他」には相違が見られるものの、その他の専攻学科の割合には極端な相違は見られなかった。

2-3 専門学校

最終学歴を「専門学校」（在学、中退含む）と回答した334人（男性40.7%、女性59.3%）であった。最も高い割合を示した専攻は同率で「医療関係」と「文化・教養関係」の2つであった（いずれも19.5%）。次に15.3%の「工業関係」が続いた。

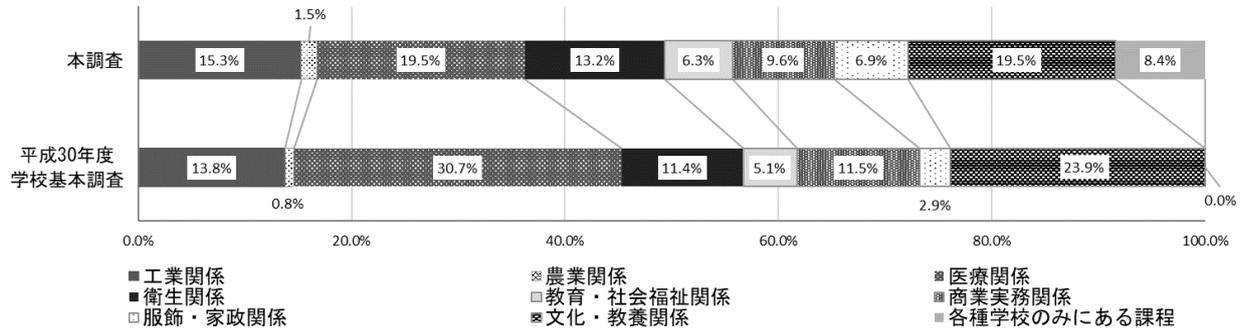
図表(補)-10 【専門学校】専攻学科別回答者割合



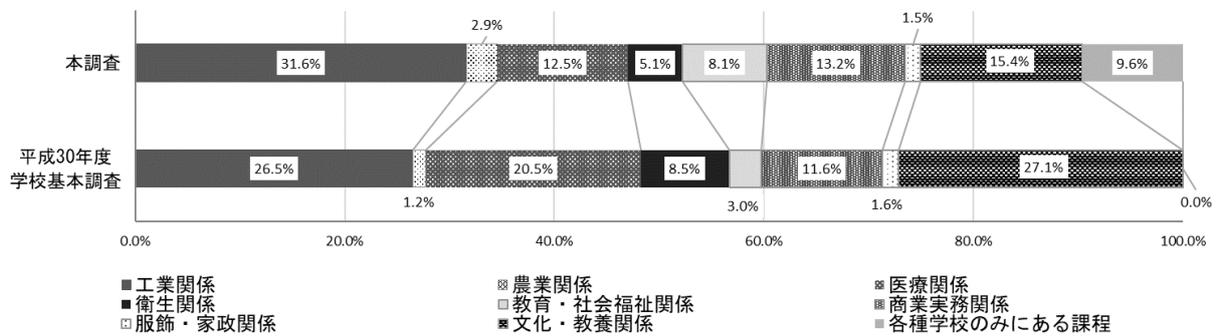
学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018b）との比較に際し、本調査の学科分類の選択肢「各種学校のみにある課程」は学校基本調査の分類には該当する分類がなかった。結果の解釈にはその点に注意されたい。

全体では、本調査の結果は学校基本調査よりも「医療関係」、「文化・教養関係」が低く、「服飾・家政関係」、「衛生関係」がやや高かった。男性では、学校基本調査よりも本調査の方が「工業関係」、「教育・社会福祉関係」が高く、「医療関係」、「文化・教養関係」が低い。女性では、「衛生関係」、「服飾・家政関係」が学校基本調査よりも高く、「医療関係」が低かった。

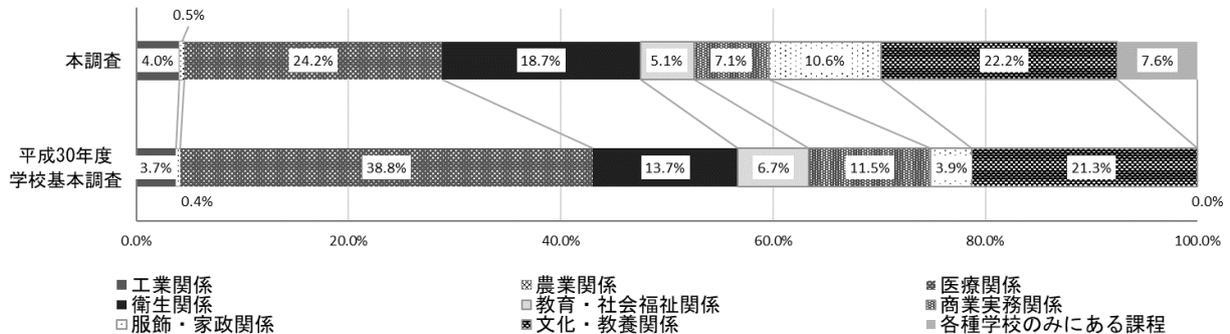
図表(補)－11 【専門学校全体】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－12 【専門学校男性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



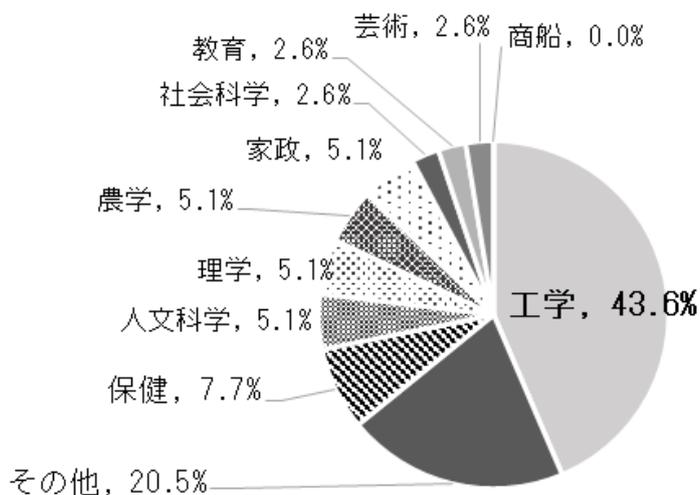
図表(補)－13 【専門学校女性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



2-4 高等専門学校

最終学歴を「高専」（在学、中退含む）と回答した 39 人（男性 48.7%、女性 51.3%）のうち、最も高い割合だったのは「工学」の 43.6%であった。次に「その他」（20.5%）、「保健」（7.7%）であった。

図表(補)－14 【高専】専攻学科別回答者割合

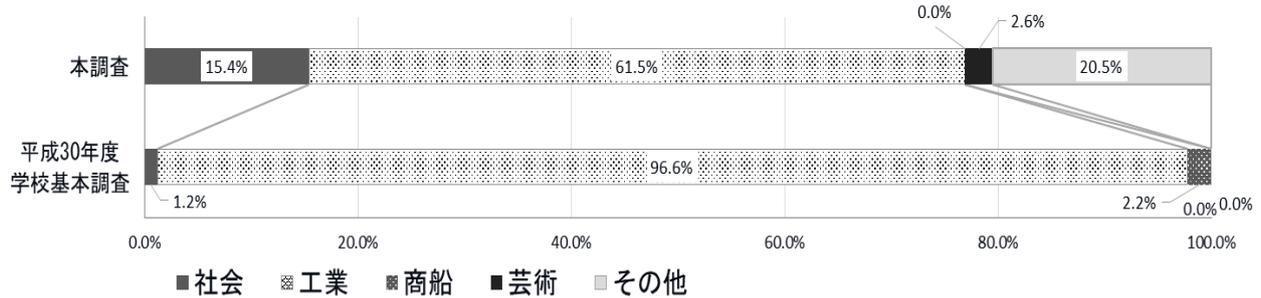


平成30年度学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018a）と比較するため、本調査で用いた学科専攻の分類を学校基本調査報告書付属資料の学科系統分類表（文部科学省，2018）に合わせて、「社会」、「工業」、「商船」、「芸術」に本調査結果のカテゴリを再編成し再集計した。ただし、本調査の「その他」は学校基本調査の分類に該当するものがないため、そのまま採用した。学校基本調査との対応内容を図表（補）－15に示す。

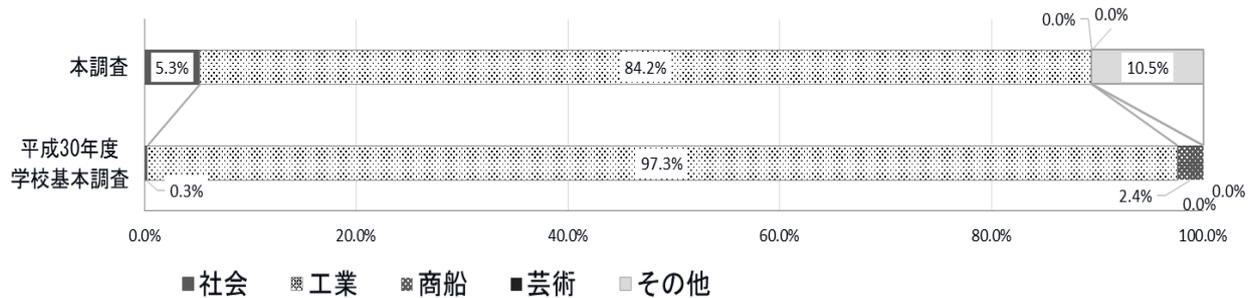
図表(補)－15 【高専】学科分類対応表

平成30年度学校基本調査 付属資料大分類	本調査における該当学科専攻
社会	人文科学、社会科学、家政、教育
芸術	芸術
工業	理学、工学、農学、保健
商船	商船
該当なし	その他

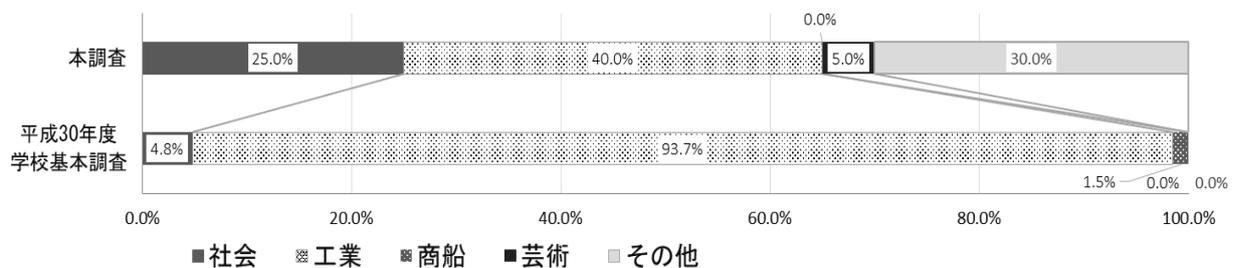
図表(補)－16 【高専全体】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－17 【高専男性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－18 【高専女性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較

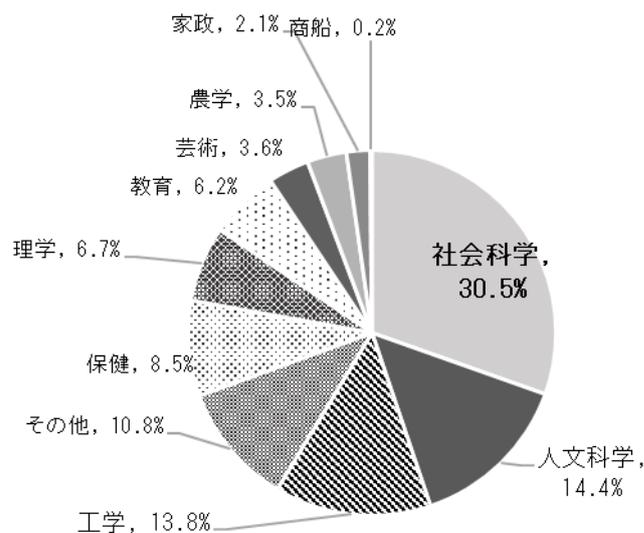


本調査の標本数が極めて少ないため単純な比較は難しいが、本調査では「工業」が男性、女性どちらにおいても最も高い割合である点が学校基本調査と一致している。一方、「社会」が学校基本調査よりも高い割合となっている。

2-4 大学

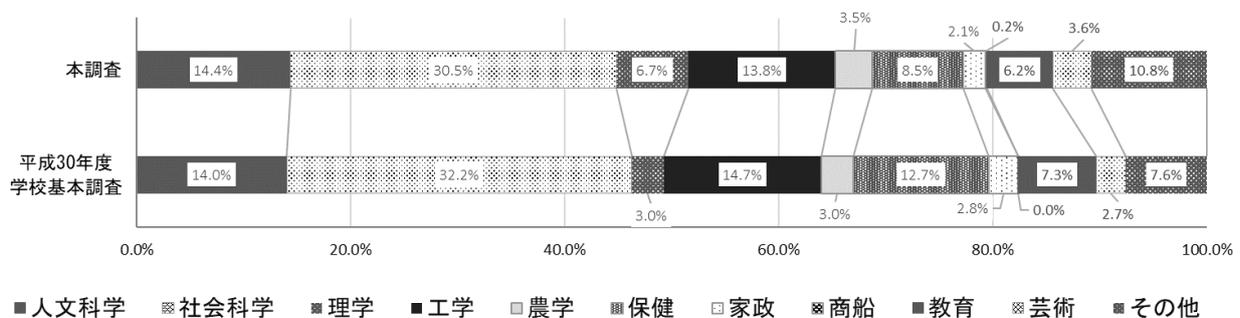
最終学歴を「大学」（在学、中退含む）と回答した 1,300 人（男性 54.7%、女性 45.3%）のうち、最も高い割合だったのは「社会科学」（30.5%）であった。次に「人文科学」（14.4%）、「工学」（13.8%）であった。

図表(補)－19 【大学】専攻学科別回答者の割合

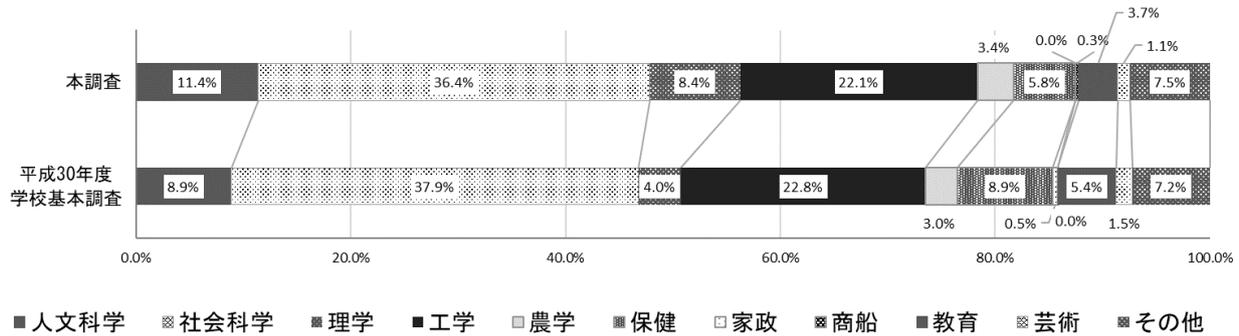


次に、平成 30 年度学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018a）との比較を行った。全体（図表（補）－20）の比較では、本調査の方が「理学」の割合がやや高く、「保健」の割合がやや低かったが、全体的には大きな違いは見られなかった。男性では、「理学」、「人文科学」が学校基本調査よりも高く、「保健」がやや低い。女性では「理学」、「その他」が高く、「保健」がやや低かった。

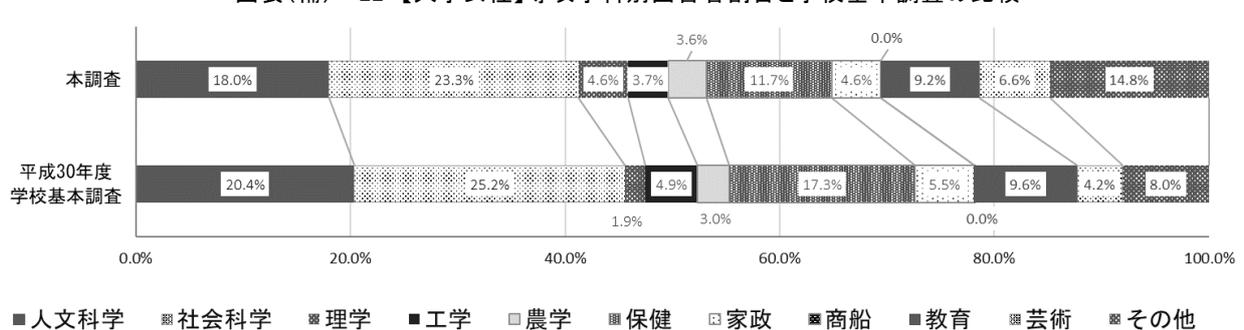
図表(補)－20 【大学全体】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－21 【大学男性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



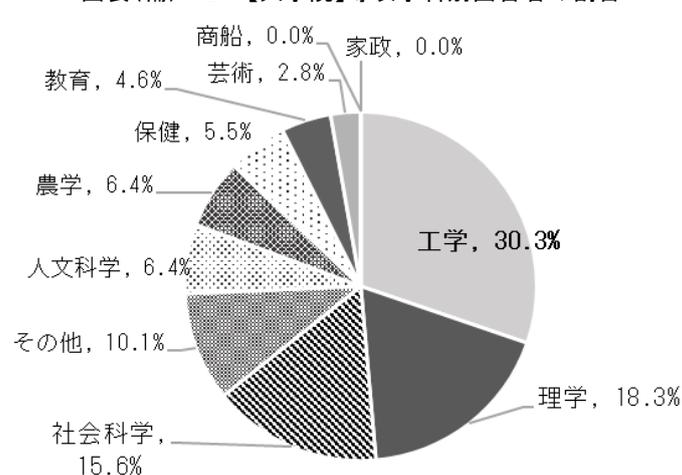
図表(補)－22 【大学女性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



2-5 大学院

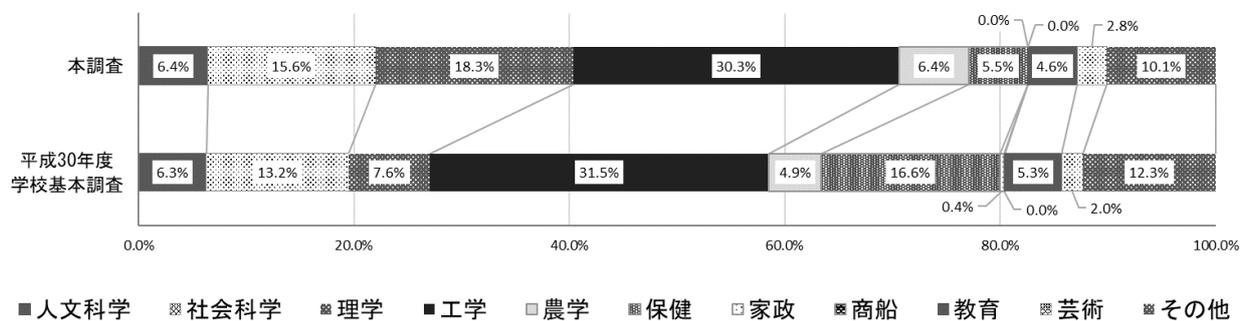
最終学歴を「大学院博士前期課程」(在学、中退含む)と回答した人数は88人(男性78.4%、女性21.6%)であった。「大学院博士後期課程」(在学、中退含む)と回答した人数は21人(男性66.7%、女性33.3%)と少なかった。そのため、「大学院博士前期課程」と合わせて割合を算出した。最も高い割合だったのは「工学」の30.3%であった。次に「理学」(18.3%)、「社会科学」(15.6%)であった。

図表(補)－23 【大学院】専攻学科別回答者の割合

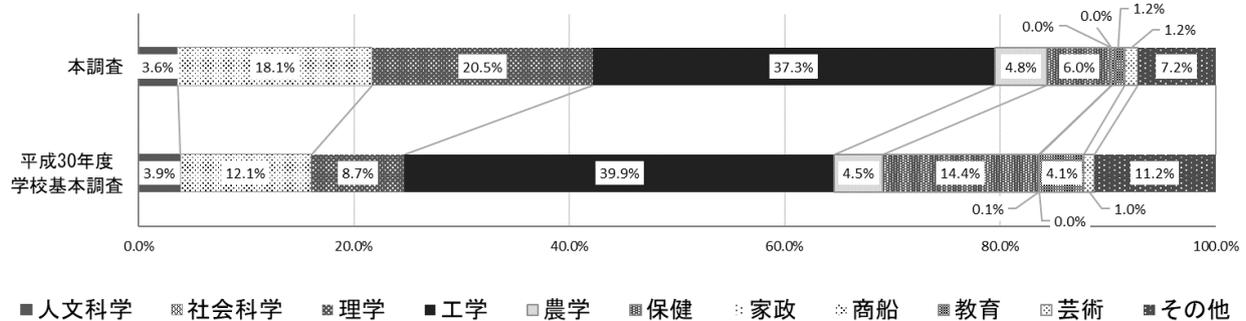


学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018a）の結果との比較を行うに際し、本調査結果と同様に学校基本調査の割合も博士前期課程と後期課程の合計を元に再計算を行った。全体では、本調査の方が「理学」が高く、「保健」が低い。男性では「理学」に加え「社会科学」が高く、「保健」が低い。女性では「理学」以外に「人文科学」、「農学」、「教育」、「芸術」、「その他」が高く、「社会科学」、「工学」、「保健」が低かった。回答者数が多くはなかったため、一概に比較することは難しいが、全体の傾向としては学校基本調査と一致していると言えよう。

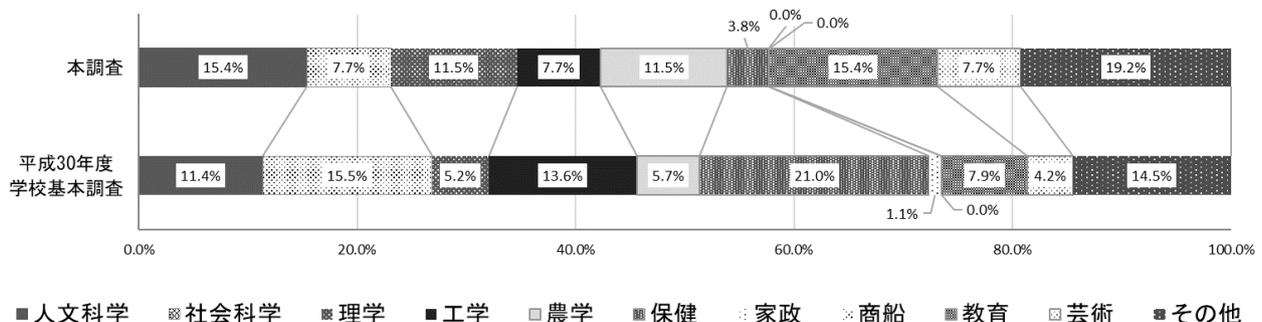
図表(補)－24 【大学院全体】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－25 【大学院男性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－26 【大学院女性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



2-6 高等教育課程合計

高等教育課程にあたる短大、専門学校、高専、大学、大学院を最終学歴と回答した参加者を合計し、専攻学科別に割合を算出した。同じように平成30年度学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編），2018a，2018b）の結果も本調査で用いた専攻学科に即して集計し、割合を算出した。短大と高専の学校基本調査の分類は、大学・大学院と異なるため、大学・大学院の専攻学科分類に対応させて再編成し、再集計した。専門学校の専攻学科の分類は、本調査、学校基本調査ともに大学・大学院の分類と異なるため、両調査結果を大学・大学院の専攻学科に対応させて再編成し、算出した。専攻学科の対応内容の一覧を図表（補）-27に示す。

図表（補）-27 専攻学科の対応表

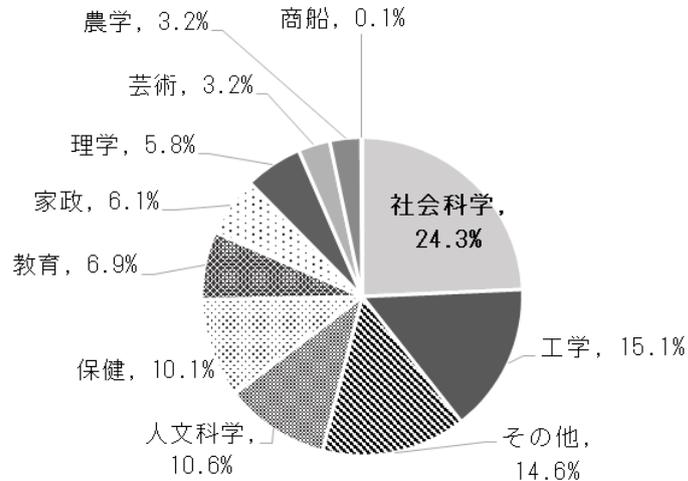
大学・大学院	短大 ※1	専門学校 ※2	高専 ※1
人文科学	人文	該当なし	該当なし
社会科学	社会	商業実務関係	社会
理学	該当なし	該当なし	該当なし
工学	工業	工業関係	工業
農学	農業	農業関係	該当なし
保健	保健	医療関係	該当なし
家政	家政	衛生関係，服飾・家政関係	該当なし
商船	該当なし	該当なし	商船
教育	教育	教育・社会福祉関係	該当なし
芸術	芸術	該当なし	該当なし
その他	教養，その他	文化・教養関係，各種学校独自	該当なし

※1 短大、高専は学校基本調査の結果のみを再編成した。

※2 専門学校は本調査、学校基本調査の両方を再編成した。

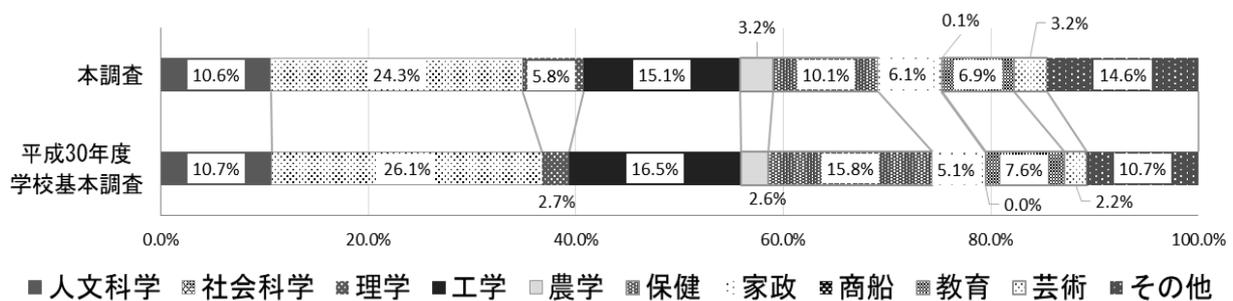
図表（補）-27をもとに、短大、専門学校、高専の専攻学科別回答者数を求め、大学、大学院の回答者数と合計し、高等教育課程の割合を算出した。最終学歴が高等教育課程のいずれか（在学、中退含む）と回答した人数は1,898人（男性51.1%、女性48.9%）であった。最も高かったのは「社会科学」（24.3%）、次いで「工学」（15.1%）、「その他」（14.6%）であった。

図表(補)－28 【高等教育課程】専攻学科別回答者の割合

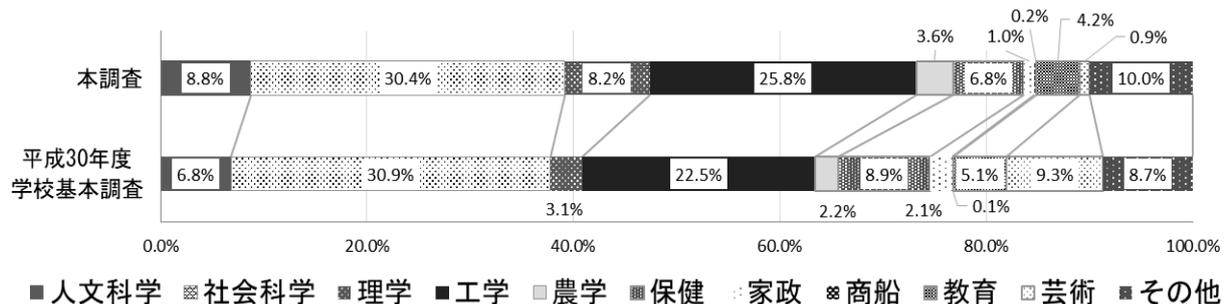


続いて、学校基本調査（文部科学省総合教育政策局調査企画課（編）、2018a, 2018b）の結果と比較を行った。全体では本調査結果の方が「その他」がやや高く、「保健」がやや低いが、大きな偏りは見られなかった。男性の結果では、学校基本調査と比較して「理学」、「工学」が高く、「芸術」が低い。女性では、「その他」がやや高く、「保健」がやや低かった。全体を見ると、本調査に回答した高等教育課程卒業生・在学者・中退者は、概ね母集団の専攻学科の割合を反映していると言えるだろう。

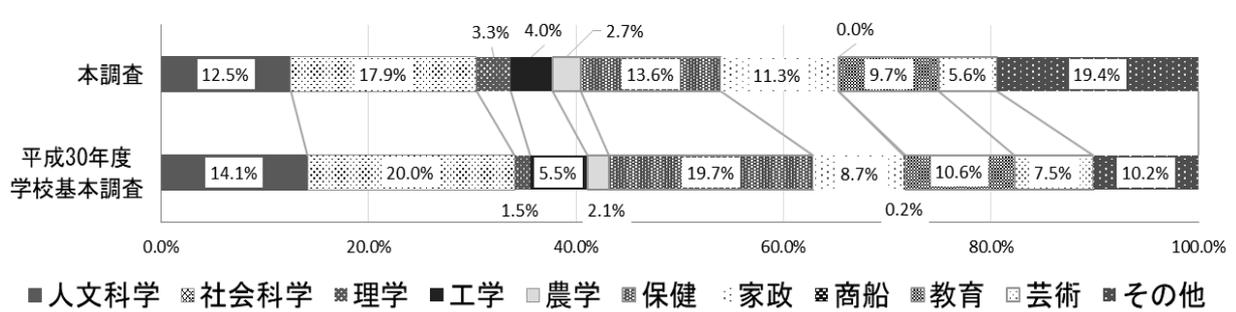
図表(補)－29 【高等教育課程全体】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－30 【高等教育課程男性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



図表(補)－31 【高等教育課程女性】専攻学科別回答者割合と学校基本調査の比較



引用文献

- 文部科学省(2018). 学校基本調査—平成30年度 付属資料 高等教育機関 学科系統分類表 http://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afieldfile/2018/08/02/1407357_4.pdf (2020年1月22日)
- 文部科学省総合教育政策局調査企画課(編)(2018a). 学校基本調査報告書：高等教育機関編 平成30年度 日経印刷.
- 文部科学省総合教育政策局調査企画課(編)(2018b). 学校基本調査報告書：初等中等教育機関・専修学校・各種学校編 平成30年度 日経印刷.